ＡＬＵＭＩＮＡ／サンカラン

Alum.は金属アルミニウムの酸化物である。周期律表でアルミニウムはグループⅢＡに属しBoron（ホウ素。Boraxというレメディになっている）と関係がある。Alum.はSyphilinumやAurum、Mercuriusと並んでSyphiliticマヤズムに対する最も卓越したレメディのひとつである。Syphilinumの場合、人の人生において最も本質的なもののひとつである希望というものを全面的に失っている。Phatakは次のように述べている：“Hopeless despair of recovery：回復に対する希望の見えない絶望感”ートータルに望みを失っている。それゆえにSyphilinumは死と破壊のレメディであり、患者は自殺的で殺人的になることがある。Mercuriusの場合、自立ーこれもまた人生に本質的な事であるがーというものが消え去ってしまっており、そのために革命的で反抗的で殺人的で自殺的になる。さて、あなたにも社会に受け入れてもらいたいという欲求や幾ばくかの宗教的フィーリングはあるだろう。これから人間というものを取り去ったのがAur.であるーこれもまた自殺的である。Alum.の場合は、その人のアイデンティティとか個性といったものが取り払われ、混乱状態にある。

Alum.の人は自分のアイデンティティを強く抑圧され、もはや自分が誰であるかわからなくなっている。誰かが自分ではない何かに成形しようとするので非常に混乱した状態にある。マテリアメディカの中にあるレメディの中で、アイデンティティの混乱という事に対して最も重要なもののひとつである。Alum.は、例えば親と子の間にみられる葛藤といったものから生じてくる状態である。子供はアイデンティティを与えられない。子供がなにをやろうと親は「違う。そうではない！」と言う。子供の個性とアイデンティティは打ち壊されてしまっている。子供が何を言っても、それは正しくないとされるー「お前は誰でもない。お前はなにも知らない！」。そうして絶望がおとずれる。「私はなにをしたらよいのか。自分は誰なのか何者なのか？なにをしたいのか、どうありたいのか、それもわからない。私はとてもちっぽけで臆病で、全く親に頼るしかない」。

Alum.は“Irresolution, timidity and fear：優柔不断、臆病、恐怖”“Delusion, head belongs to another：頭が他人のものであるという妄想”というルブリクスに挙げられている。自分の頭が誰のものかわからないのである。まるで他の誰かが自分の代わりに考え、自分で考えることができないかのように感じる。なにかを聞いたり話したりしているのが自分であっても、まるで他人がそうしているかのように感じる。本当のアイデンティティは抑圧され封じ込められており、そのため他人が望むとおりに自分を形作らなければならなくなる。時には親のコントロールが非常に強いために自分のアイデンティティを喪失して衝動的になったりする。たとえば、誰かの手をわしづかみにしたり、衝動的に暴力行動をとったりするかもしれない。Alum.が破綻した状態になると、すさまじい絶望感がみられ、自殺傾向を生じるほどになる：“Morbid impulses to shoot himself：自分を拳銃で撃ちたいという病的な衝動”“Impulses to cut herself even though she abhors the idea：自分を切ってしまいたいという衝動。たとえその考えを忌み嫌っていても”。ここに表れているのは、衝動性、破壊性、優柔不断さ、臆病さ、恐怖である。

コントロールはAlum.の重大なテーマである。たくさんの問題がコントロールということと関わっているー肉体のコントロール、手足のコントロール、衝動性、コントロールを失うことに対する恐怖感。精神機能は非常に弱体化している（“Weak will：弱い意志”）。そのため筋肉からも精神の働きが取り除かれており、適切に動作することができず、バランスを欠いている。同時に、Alum.はコントロールされた状態にいることが好きである。ミネラルであるので、組織だっているとか好みがうるさいという要素もみられる。自分のアイデンティティを失ってしまった人は気むずかしい好みのうるさい人になり、全てを他の誰かの言うとおりに完璧にやらなければならなくなる。それでいて、自分が完璧に屈辱を受けめちゃめちゃにされたということも感じている。

自分のアイデンティティを保つためには自分が堅固で凝り固まったようになる必要があると感じている。こうして補償された状態にあるAlum.は非常に堅固で頑なである。

ゆえに以下のルブリクスがみられる

　ーTimidity alternating with assurance：小心な状態と安定した状態が交互に表れる。

　ーObstinate, resists the wishes of others：頑固。他人の意図に抗う。

　ーDefiant：挑戦的反抗的。

私がよく思い出すAlum.のあるケースは、自分のことをまるでなにかの物体のことを話すように語り、まるで天気予報を読むかのように述べた人である。彼の話しぶりは「私は」とか「私の」といった代名詞さえほとんど使用せずに、超然と第三者的に聞こえるのであった。たとえばこうである：「痒みの感覚はほとんど野蛮なものです。それは顔の永続的な特徴となっています。引っ掻くことによってたくさんのベタベタした分泌物が出ます・・・それが出てくると顔はテカテカと赤くなります。太陽によって悪化します」。また非常によく論争する。ほとんどエンドレスに行う。まるで論争することで自分のアイデンティティを確立しているかのようである。もし際限なく論争する人がいるとしたら、それはその人にとって自分が持ち合わせていると実感できないアイデンティティを創造し維持するためだけに行われているのである。

Alum.は元々左利きなのに右で書くことを強いられてきた子供に良いレメディである。この子供達は自分のアイデンティティを無理矢理に失わさせられ、自分が右利きなのか左利きなのか混乱している。生まれついたもの以上のなにかを子供に強制するとAlum.の状態に出くわすことになるだろう。

ルブリクス

　ーConfusion, identity, as to his：アイデンティティに関する混乱。

　ーDelusion, head belongs to another：頭が他人のものであるという妄想。

　ーDelusion, identity, errors of personal：自己のアイデンティティの誤り。

　ーContradictory to speech, intentions are：意図と話していることが矛盾する。

　ーImpuse, morbid：病的な衝動。

　ーSucidal disposition, seeing blood or a knife, she has horrid thoughts of killing herself, though she abhors the idea：自殺傾向。血やナイフをみて。その考えを忌み嫌っているのだけれども自分を殺したいという病的な思考がある。

　ーFastidious：好みがうるさい。

　ーAilments, scorn, being scorned：蔑まれたことから病に。

　ーContemptuous：侮蔑的。

　ーObstinate, resists wishes of others：頑固。他人の意図に抗う。

Kent

　ーChoking, oesophagus, swallowing：窒息、食道、嚥下。

Phatak

　ーFear, impulse, of his own：自分の衝動を恐れる。

　ーSoles soft, furry：足の裏が柔らかい。毛皮のよう。

　ーtalks, through him, other person, as if：まるで自分を通して他人が話しているかのように感じる。